

善仁寺の歴史散歩



平和に静かに佇んでいる善仁寺も、今、ここに至るまでに様々なことがありました。善仁寺寺報創刊号（平成22年8月15日発行）で、取り上げて以来ですが、今回は、資料の中では散見される善仁寺のことを集めてみましたのでご紹介します。まずは、この表紙の写真。今の山門ではありません。東京大空襲（1945年）によって焼失する前の姿です。

サイズも今の山門よりもひと回り大きいようです。右手奥、現在は志納所となつているところに立派な寺院造りの大屋根が見えます。大玄関かもしません。

そして山門入つたところには、いまは立派な藤蔓がありますが、それは10倍はありそうな。松?のよくな植木が見えます。

山門には大きな扁額が掛けてあります。

ビンビサーカーの仕官のすすめを断つた沙門シッダールタはアーラーラ・カラーマという修行者に師事しました。瞑想についての思想を究めていました。アーラーラの教えは「無所有處定」といいました。「無所有」とは、字そのままで、「所有するものが何もない」という意味となります。つまり、一切の執着をもたない境地への道を示したものです。その行を「禪定」といいます。禪定とは、「禪」とは静慮、「定」とは三昧を表し、心を明らかにして瞑想する」といわれています。当時のイングでは代表的な修行法であったのです。「坐禪」と同義であるとの資料もあります。シッダールタは僅か数カ月でアーラーラの教えを完全に心得てしましました。

当時120歳であったアーラーラは、いまして。

教団内での指導的立場を認めの言葉のようでもあります。しかし、シッダールタはアーラーラの教えによって「四」の課題を解決できるとは思えませんでした。したがって、シッダールタは去つていきました。

次にウツダカ・ラーマ・プラッタとこの修行者に「師事する」ととなつました。ウツダカの説く教えは「悲想非悲想」(ひそうひひそう)といいました。「悲想」とは思いあることは思念を無くすといつてゐます。そして「非悲想」とは思念を無くするのもしない、となつます。つまりアーラーラが説くところが一切の執着といつて思念をしないといつてゐるなり、その境地を超えた思念そのものが無い境地といつてあるのでしよう。しかしへシッダールタはウツダカの説く境地もすべに会得してしまいました。

ワッダカはシッダールタを自分と同等の者であると認めました。しかしシッダールタは「」の知覚のない、かつ知覚の不在のない瞑想は、目的でもなく、^げ^{だつ}解脱でもなく、休息でもなく、休止でもなく、宗教生活でもなく、涅槃の究極の安息の場でもない。「」の教義は私の気に入らない」と語つて去つてきました。シッダールタの求める道はまだ先でした。



序章

編集後記

先代住職の父親である青山玄静（げんじょう）
1886～1936）は現住職の3代
前の善仁寺住職です。

この玄静の代の時の足跡が境内にあ
る石碑に彫られています。

左の写真は山門を入って左側にあり

ます。内容は親鸞聖人650御遠忌

が明治44年にあたり、御遠忌事業

として、本堂と鐘楼の改築したこと

が彫られています。石碑の日付が大

正6年4月となっていますので、志納

金が改築できるほど集まるまでに、

6年の年月を要したのでしょう。

石碑には志納金額と名前、職人の名

前などが裏表いっぱいに彫られています。

現在の善仁寺のご門徒の方々の

ご先祖のお名前が多数あります。



ピンボケの写真しかありませんでした
が、右の写真がその時に落成され
た鐘楼であったと思われます。梵鐘
のサイズが現在のものより小ぶりで
あつたようです。僅か28年後に、こ
の鐘楼も焼失してしまいます。そし
てこの大改修の時の住職であった青
山玄静は昭和11年に51歳で命終
します。胃がんを患つたようです。
左の写真が玄静の若い頃の写真です。
現住職の曾祖父にあたります。

さて、その後のことがよく分かつて

そして、終戦後、静雄の弟であつた昌
雄が善仁寺に戻り住職に就任しま
さを痛感します。
雄が善仁寺に戻り住職に就任しま
さを痛感します。

右側の地図は近年復元された「復
元江戸情報地図」抜粋です。185
6年頃の地図です。次項では切れて
分かれませんが離れたところに善仁
寺の寺領があることが分かります。
江戸時代中でも善仁寺の敷地は大
きくなったり小さくなったりしていま
すが、17世紀後半には現在の敷地
とほぼ同じくらいになつていたことが



おりません。はつきりとしているのは
玄静にはすぐ下に弟、正純がおりま
したが、住職継承をしなかつたとい
うことです。玄静命終のとき満44歳
でしたので、通常であれば住職を継
承すべきところでしたがなぜ住職
継承をしなかったかは不明です。

善仁寺を継承したのは長男の青山
静雄でした。しかし、このときはまだ
16歳という年齢でしたので、暫くは
代務者（不明）が善仁寺を預かる形
となつていただと考えられます。その後、
静雄が住職を継承しますが、戦争で
徴兵となり、昭和20年6月に斐
リピン沖で戦死しました。25歳と
いう若さでした。左の写真が青山静
雄の唯一残る写真です。戦争の残酷
さを痛感します。

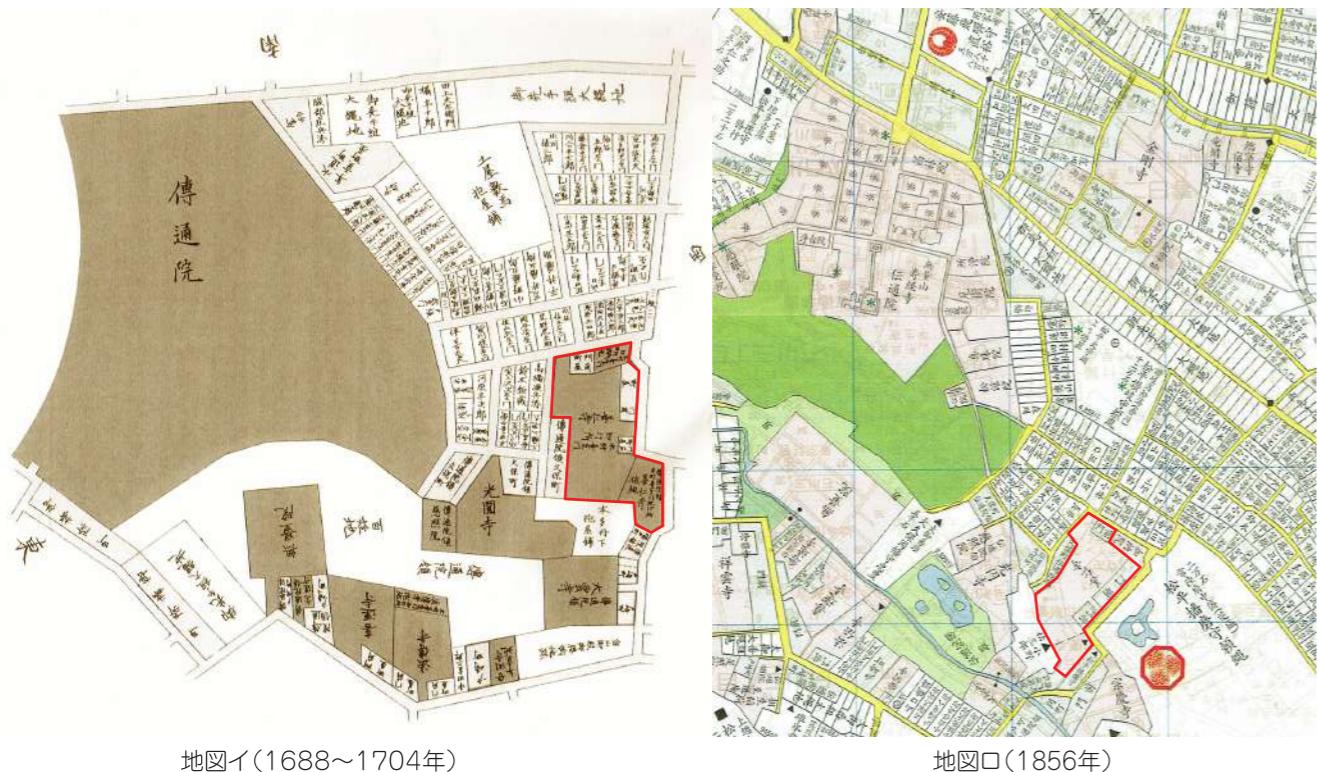
した後は、ご門徒の皆様、ご承知の
通りです。
さて、時代は飛びまして、江戸時代の
古地図を広げてみましょう。
善仁寺がある小石川周辺の古地図
は年代によつていくつかあります。

次頁の地図イはの題名は「元禄年中
之形」とあり1688年～1704
年の地図です。赤く囲みの部分が善
仁寺に関わる土地と思われます。

現在と大きく異なるのは傳通院が
現在の姿よりかなり大きいといつこ
とです。善仁寺の境内地でも北西の
所善仁寺抱地」とあり、傳通院の領
地であったことが分かります。

現在と大きく異なるのは傳通院が
現在の姿よりかなり大きいといつこ
とです。善仁寺の境内地でも北西の
所善仁寺抱地」とあり、傳通院の領
地であったことが分かります。

した後は、ご門徒の皆様、ご承知の
通りです。



地図ロ(1856年)

地図イ(1688～1704年)

分かります。2つの地図から分かりますように、善仁寺の正門の両脇には「門前町屋」という門前地があつたようです。門前地とは「寺の門前の地所。江戸時代、名目上寺院の境内内ですが、ここに商家を建てさせて、その収入を寺院の費用に充てた」（大辞泉／小学館）と書いてあります。門前町屋は許可制であつたようで、「御府内寺社備考第7冊」には「元禄4（1691）年に門前町屋がゆるされた」とあります。門前町屋の賑わいの様子が善仁寺の近くにあります篠川神社の幟立の解説文に書いてあります。「善仁寺境内門前町屋」として元禄5（1692）年に奉納されたようです。そこには「石川山福住院善仁寺は真宗大谷派の名刹で、区内でも屈指の広さであった境内地の中に門前町があり、古来より大変な賑わいであった」とあります。現在の幟立は平成12年に再建されたものですが、できるかぎり以前のものを忠実に再現したそうです。

文政年間にまとめられた「寺社書上」「御府内備考続編136巻」には善仁寺のことが詳しく書かれてています。一部紹介しますと「小石川極楽水東本願寺末石川山福住院一向宗 善仁寺 境内古跡年貢地三千六百三十九坪 内門前町屋有之」と始まり、創建が安和二（969）年であること、創建当時は宗旨は「真言宗」であり「福住院と号し」ていたとあります。また「御朱印地境内八千坪（二万坪とも）」とあり、親鸞聖人がご来寺したこと、極楽水の井戸のことなども記載されています。境

内地図が下の絵です。今と配置は似ています。とりあえず、今回ここまでといたします。散文的な資料のご紹

Topics
善仁寺からのお知らせ

善仁寺総代役員任命

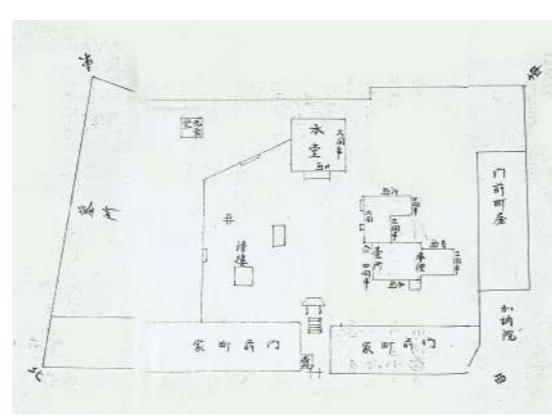
善仁寺総代役員を2015年4月24日任期満了により2015年4月25日より左記3名に任命いたしましたので、以下報告いたします。

岩崎 一夫さん

中澤 正幸さん

村上 雅子さん

以上3名



善仁寺境内地図(1829年)

となつてしましましたが、続きを読むまたの機会に。